



夏目光学(株)が加入 研究会への参加 28 事業所に

地域ぐるみ環境 ISO 研究会に新しい仲間が加わりました。夏目光学(株)は 2002 年 3 月に ISO14001 認証登録済の従業員数 183 人の会社です。

レンズや光学器械のメーカーで、「科学工作教室推進研究会」(11 社)の代表もつとめています。将来の地域産業の担い手育成をめざしてボランティアで子供科学工作教室を飯田市美術博物館で開いています。この活動が評価され飯田市の「第 20 回ムトス賞」を受賞しました。「ムトス」は広辞苑の最後尾の「～んとす」という自発的な意思。「ムトス賞」は市民の自主的な活動を顕彰するものです。

研究会の現在のメンバーです。多摩川精機(株) 旭松食品(株) 飯田市役所 飯田信用金庫 中部電力(株)飯田支店 (株)平和時計製作所 三菱電機(株)中津川製作所飯田工場 オムロン飯田(株) 飯田 TDK(株) 八十二銀行飯田支店 井坪設備工業(有) (株)光和 (有)アイエス精工 エコトピア飯田(株) (株)アース・グリーン・マネジメント パチンコダイエーグループ 東日本システム建設(株)飯田支店 盟和産業(株) 化成工業(株) 吉川建設(株) 木下建設(株) (株)原鉄 神稲建設(株) 南信共同アスコン(株) 飯田商工会議所 信南サービス(株) (株)トーエネック飯田支店、そして 夏目光学(株)の 28 事業所です。

南信州広域連合のごみ焼却施設 桐林クリーンセンター内部環境監査



桐林クリーンセンターは飯田市や近隣の町村で組織する南信州広域連合のごみ焼却施設です。2003 年 3 月竣工、24 時間稼働のセンターの処理能力は一日 93 t (46.5t) の旋回式流動床式ガス化炉を 2 基です。

1 月 14 日(金)桐林クリーンセンターの ISO14001 の年度内での認証登録にむけた内部監査が行われました。監査員のリーダーはすぐ近くの環境産業公園にある研究会メンバー(株)アース・グリーン・マネジメントの代田さん。監査員は研究会の飯田市役所から 2 人そして所沢市から環境総務課とクリーンセンターの 2 人。午後 1 時半から 4 時間、システムから運用までの監査を行いました。



クリーンセンターの従業員は 36 人と少ないものの施設の特異性から時間がかかり環境マネジメントシステムの重要な項目のチェックが主でした。センターのステージ 1 審査は 2 月 3 日～4 日に行われます。

多治見市の内部環境監査 1 部署 1 時間に同席しました



1 月 17 日(月)岐阜県多治見市役所の ISO14001 内部環境監査に飯田市から 2 人が同席しました。昨年 7 月に行われた飯田市役所の相互内部監査にも多治見市から参加があり、新城市同様「相互」となります。全国環境 NGO が主催する環境首都コンテスト 2004 で第 1 位の多治見市の内部環境監査から学びました。

1 課 1 時間という内部監査がどのように進められるか関心がありました。午後の 3 時間に 2 人で 6 課の内部監査に立ち会えたこととなります。年 2 回の監査の実施、監査を受けるのが今年 3 度目という課もありました。事前のチェックや重点を絞るなど監査のメリハリもあり、やはり 1 時間という短い時間にはそれなりの理由も...



担当する監査員が体調を崩して退席した後、監査を続けたのは何と今井環境経済部長でした。職場に行っていたインタビューや監査では今井部長だけでなく河田環境課長もビシビシ質問。これには驚かされました。

多治見市は ISO の環境マネジメントシステムが市の総合計画と完全にリンクしています。政策形成ヒヤリングでは環境部門も同席し意見反映ができる仕組みが強みです。あらためて環境首都コンテスト首位の多治見市の総合力を感じました。

1 月 20 日・21 日は忙しい 市役所自己宣言 2 周年

研究会による相互内部環境監査などの客観性・透明性担保による飯田市役所の ISO14001 自己宣言移行から丸 2 年。1 月 20 日 15～17 時外部検証が行われ、市長による新環境方針の発表と二ツセイ基礎研究所の川村雅彦さんによる講演「文化経済自立から飯田を考える」があります。

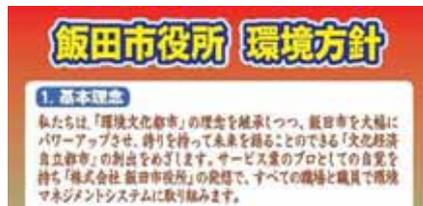


1 月 20～21 日には研究会が応募した賞の現地調査を受け入れることになりました。タイミングよく開かれる多摩川精機のグリーン調達説明会も参加。研究会の基礎となる各事業所の環境への取り組みから研究会全体を見てもらいます。こうした機会を自分たちの取り組みを振り返り整理するきっかけにしたいものです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機(株)) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



飯田市役所 環境方針改正！ 「基本理念」を発表



飯田市役所の「環境方針」の改正が
牧野光朗 飯田市長から 1月7日の
記者会見で発表されました。

これまでの環境方針は飯田市役所
がISO14001 審査登録から自己適合
宣言に移行した2003年1月23日に
改正されものです。発表されたのは
環境方針の「基本理念」部分だけです。
10月28日に就任した牧野市長の政
治理念である「文化経済自立都市」な
どが盛り込まれました。

私たちは、「環境文化都市」の
理念を継承しつつ、飯田市を
大幅にパワーアップさせ、
誇りを持って未来を語る
ことのできる「文化経済自立
都市」の創出をめざします。
サービス業のプロとしての
自覚を持ち「株式会社 飯田
市役所」の発想で、すべての
職場と職員で環境マネジ
メントシステムに取り組みます。

「環境文化都市」から「文化経済自
立都市」へ、環境の世紀において「環
境文化都市」の理念は輝きを失って
いません。しかし、飯田市を取り巻
く社会経済情勢が大きく変わり「環
境文化都市」を実現していくため
にも飯田市のパワーアップが必要とな
っています。経済的自立度を高めて
いくことがこの地域の生き残りには
急がれています。

市長の掲げる「株式会社飯田市役
所」の発想は民間の経営感覚を導入
していくものです。職員一人ひと
りが民間と同じように地域の自立度
を高めるために何をすべきかを絶えず
意識して行動することです。P D C
Aサイクルの継続的改善もカギです。

「基本方針」も改正されます 1月20日の自己宣言移行 2周年で全体を発表

環境方針の「基本方針」も改正され
ます。環境方針の全体については1
月20日に発表されることになって
います。15:00 から 17:00 まで飯田
市役所の3階会議室で行われる
ISO14001 自己適合宣言移行2周年
の外部からの検証の場においてです。

環境方針に込められた牧野市長の
環境やまちづくりの考え方や思いが
職員や地元の民間企業や地域外の皆
さんに明らかにされます。多くの皆
さんの参加をお待ちしています。

環境産業公園にある 環境技術開発センターの システム内部環境監査



年度内の認証取得に向けて飯田市
環境技術開発センターの ISO14001
システムの内部環境監査が1月6日
にセンターで行われました。

内部監査を担当したのは研究会の
多摩川精機㈱と飯田市役所です。環
境負荷の少ない小さな組織ですが、
大きな重いシステムになっていまし
た。環境マネジメントシステムのス
リム化はどの組織にとっても課題で
すが特にその必要性を感じました。

飯田市環境技術開発センターは、新たな
時代をクリエイトする新規事業のための支
援施設です。地域の意欲あふれる6企業が
このスペースで環境関連技術を核にした新
分野への進出や新技術開発・研究を行って
います。私たちの地域を活性化する企業と
して成長することがこの施設の目的です。
飯田市環境技術開発センターのホームページ
<http://www.isilip.com/develop/>

環境技術開発センターの暖房は ペレットストーブでした



各部屋の暖房はペレットストーブ
でした。ファンヒーターとは違う暖
かさの中で内部監査は半日かけて
行われました。各監査員それぞれの
視点で、さまざまな疑問や問題が出
されました。相互内部監査、準備も
大変ですが実に面白いですよ。

環境技術開発センターの内部監査
にはすぐ近くにある南信州広域連合
の焼却施設、桐林クリーンセンター
からも2人が同席しました。こちら
も年度内の認証取得をめざし1月
14日に ISO14001 システムの内部
環境監査が行われることになってい
ます。桐林クリーンセンターの内部
環境監査には研究会からアース・グ
リーン・マネジメント㈱と飯田市役
所が参加します。また所沢市役所も
参加してくれます。所沢市はクリー
ンセンターの運用システムの視察受
入など構築でお世話になっています。

今年も飯田から「ぐるみ通信」をお届けし
ます。年末年始に降った雪がまだ...



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機㈱) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



地域に新しい市民運動！ 「e-地域協議会」準備会



飯田市内で環境改善活動に取り組むNPO法人や団体などが27日に飯田市保健センター会議室に集まりました。環境をメインにした、この地域での新しい市民活動組織を立ち上げようとの呼びかけに集まりました。暮れの忙しい27日でしたが何とか年内に準備会をしたいとの参加者の熱意で行われました。

この日集まったのは地域ぐるみ環境ISO研究会のほかに環境アドバイザー連絡会・飯田消費者の会・飯田商工会議所女性会・NPO法人グリーンクラブいっぴき・NPO法人南信州おひさま進歩・NPO法人いっぴき自然エネルギーネット山法師・飯田市14人です(順不同です)。地域でグリーンコンシューマー活動を続けてきた「グリーンクラブいっぴき」がこの日にNPO法人になりました。環境関連のNPO法人が今年もいくつもでき、大きな期待です。

市民・企業・自治体の連携 「環境市民」の支援を受け

「e-地域協議会」準備会とはいえ、今回はこのような市民活動組織の立ち上げについて相談する会でした。

「e-地域協議会」も仮称であり、どんな名前になっていくか楽しみです。

参加者はお互いの組織について存在も知らないといった理解が不十分でした。また、それぞれの活動はしているものの、ネットワークやパートナーシップをどう組んでいくか悩んでいるといった声が多く出ました。

この地域での「市民参画」が弱いことは指摘されてきました。環境市民など全国10の環境NGOが主催する環境首都コンテストでも明らかになっています。各地での同じような組織の立ち上げにかかわっている「環境市民」代表理事の枚本育生さん

にサポート、アドバイスの支援をいただくことになりました。あせらずじっくり飯田らしい組織を広く市民に提案できる準備を進めていきます。飯田市と様々な縁のある枚本さんは飯田市民でない以上あくまでも関わりは支援であって、目標は「私がいらなくなる」と言っていました。

飯田市で以前「環境ネットワーク」ができた経過がありました。全体としての活動のない形だけのものとして機能しなかった反省があります。



参加者にメリットはあるか 本来やりたいことができ 活動の輪は広がっていくか

パートナーシップによるネットワークを安易に作ったとしても成功はしません。この組織に参加する具体的なメリットがないと活動は決して続きません。それぞれの組織・団体はめざすもの、活動内容が当然異なります。全体の活動だけを無理して行っても「やらされている」との不満しか残らないのかも知れません。

事務局をどうするのかなど課題も多くあります。ちょうど飯田市で環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」が今年から3年間始まっています。この事業をきっかけにこの期間にそれぞれの組織が活動実績をあげ、実力をつけるチャンスです。次回は1月中旬、趣旨・具体的な目的・活動内容・組織の性格・資金・進め方など基本的なことを決めていきます。準備会は始まったばかりですが、確実に一歩前に出ました。

カレンダーの回収・配布 今年も環境保全協会と

今年も県環境保全協会と連携して事業所に使いきれないカレンダーやダイアリーを集めました。29・30日、研究会の飯田信用金庫本店と八十二銀行飯田支店で市民に配布します

環境自治体会議いっぴき会議 記録集が完成をしました

今年の飯田市での大きなイベント、5月26・27・28日の環境自治体会議いっぴき会議の記録集CDRが完成しました。これまでの厚さ2cmほどの冊子記録集ではなくPDF文書と録音による初めての試みです。

参加者への発送は1月になりますのでもう少しお待ちください。また会議資料集と記録CDRに少し余りがあり2000円でお分けします。希望の方は連絡してください



飯田市役所 ISO14001 自己適合宣言移行2周年 1月20日(木)15:00～

飯田市役所が研究会との相互内部監査などでISO14001システムの透明性・客観性を進め、審査登録から自己適合宣言したのが2003年1月23日。この日を「外部からの検証」の日と位置づけ自己適合宣言の精神を確認しています。移行2周年事業は次のとおり行います。もちろん、飯田市役所以外の人たちの参加も広く呼びかけています。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。

日時 1月20日(木)15:00～17:00

場所 飯田市役所3階会議室

内容

市長による新環境方針の発表

外部参加者からのメッセージ

川本雅彦氏講演会

(ニッセイ基礎研究所上席主任研究員)

今年も1年間ありがとうございました。来年も地域での取り組みを「ぐるみ通信」で発信し、全国の皆さんとの縁を結びます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



ありがとうございました みなさんからのたくさんの クリスマスプレゼント

この「ぐるみ通信」で地域ぐるみ研究会ISO研究会の活動のほんの一部を情報発信し紹介しています。研究会はゆるやかな組織・活動であって会員事業所の活動が基本であることは言うまでもありません。それぞれの会員事業所の事業での、環境でのガンバリが研究会を支えています。めざすものが同じ仲間との活動はより楽しいし勇気づけられます。



それは発足時からそうでした。しかし、自分たちだけの内なる力には限界もあるのも事実です。悩んだり自信がなくなったりしたとき外からのエールが私たちの大きな力となっています。私たちによる情報発信にも限られています。その私たちの活動に注目し様々な大きな機会に紹介してくれる人たちがいます。今年の多くの人たちに支えられてきました。ありがとうございました。

まるでクリスマスプレゼントのような「本での紹介」を紹介します。

「環境再生と日本経済」 市民・企業・自治体の挑戦 三橋規宏さんが岩波新書で

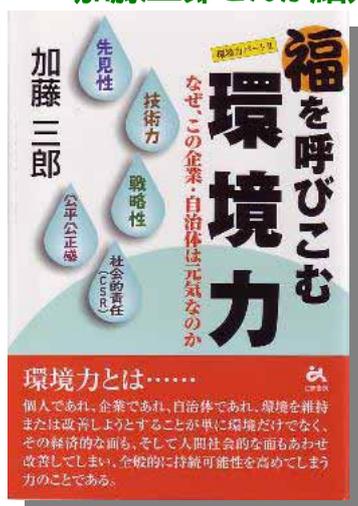
12月21日に発行された本の「第2章 地域価値の発掘者たち」の2で紹介されています。本の約1/10の25ページで「環境文化都市づくりに挑む - 南信州人の心意気」として紹介されています。ムトス、飯田りんご並木、人形劇フェスタ、研究会、南信州 いむす21、飯田市役所の自己適合宣言など。私たち研究会の事業所や人の名前が登場しています。

嬉しいですね。地域で活動している私たちには大きな励みになります。



飯田のよき理解者、三橋さんならではの内容です。第2章には菜の花エコプロジェクト、岩手県葛巻町も紹介されています。新赤版924、この赤がサンタのようですね。

「福をよびこむ環境力」 自治体環境グランプリの飯田市 加藤三郎さんが紹介



ごま書房から1月5日に発行される加藤三郎さんの本です。こちらも今年「エコタウン飯田で循環社会を考える」で縁の深まった加藤さんが飯田の紹介してくれています。本の副題に「なぜ、この企業・自治体は元気なのか」とあるように全国の19自治体も紹介されています。順不同とはいえ、その最初が飯田市です。

「数々の環境賞に輝いた「水辺のまち」の環境対策...ここで特徴的なことは行政だけでなく、市民やNGO、さらに立地企業が一団となって取り組んで成果を挙げているところです...。昨年暮れに出版された「環境力 日本再生の分かれ道」のパート。「福を呼びこむ環境力」ですから「お年玉」といった方がいいのでしょうか。

月刊「アイソス」では 「ぐるみ通信」写真もいれと

この「ぐるみ通信」がマネジメント規格の専門月刊誌「月刊アイソス」の2005年1月号で紹介されています。11ページにあるWOW!というコラムに「ISO内容が充実しているHPやメルマガ」として載っています。テクノファ、JRI、JIA、EMS-Jと一緒に「写真もいれぐるみ通信」として通信の2枚の写真とともに。

変わったところでは、長野県飯田市の「地域ぐるみ環境ISO研究会」が月に3、4回送信しているPDFメール「ぐるみ通信」(最近来た89はどんぐり特集が「どんぐり通信」となっている)。自己宣言に移行した飯田市のISO14001の相互内部監査の様子などが報告されて来る。風越山、リンゴ並木、天竜峡など四季折々の飯田の風景写真も一緒に送られてくる。人知れずオフィスで心洗われるひととき。とありました。

<http://www.isos.co.jp/>



今回紹介した書籍のほかにも関わったものだけでも「月刊地方自治職員研修」12月号(公職研)などの雑誌でも私たちの活動が紹介されました。もちろん私たちの知らないところでも紹介していただいていることでしょう。受賞関係のイベントでの紹介も大きいです。ありがとうございました。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林梅太郎(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



相互内部監査の拡がり 研究会の飯田TDK(株)でも



12月13日に研究会の飯田TDK(株)で環境委員会を対象にした内部環境監査が行われ飯田市役所から2人が参加しました。内部監査は組織内で組織の人が運用状況を評価するものです。「相互内部監査」でも内部監査があくまでもメイン、内部に外部の人を加えるというものです。



2000年に研究会からの参加を受け入れ飯田市役所の相互内部監査は始まりました。飯田TDK(株)はこの時からずっと参加していましたが、このたび受け入れを始めました。

一番詳しいISOの運用事務局をだれが監査するかという悩みから相互内部監査は始まった経過もあります。小さい組織ではなおさらです。研究会の中には毎年受け入れている民間企業もあります。互いのレベルアップのためにも広めたいものです。

他の地域への拡がり 愛知県新城市役所でも



12月20日には愛知県新城市役所の環境管理責任者・事務局を対象にした内部環境監査に参加しました。新城市役所からは7月の飯田市の内部監査に4人の参加がありました。

今回初めての試みという新城市の相互内部監査には民間企業や市民も参加していました。来年度から本格的に行いたいとのことでした。

相互内部監査のおかげで審査員でもないのにいろいろな組織のISOシステムを見る機会が増えました。マニュアルはじめシステムの多様さに驚かされます。審査機関の方針?、審査員の影響?、コンサルタントの指導の結果?。苦労して作って運用しているシステムゆえに、課題はわかかっていても変えるのは大変です。

自治体は合併の大詰め 飯田市は上村・南信濃村と

市町村合併で新しい自治体が生まれています。またそのための準備に追われています。ISOに取り組んでいる自治体と合併する小さな自治体にとっての不安は大きいでしょう。強引なサイトの拡大ではなく無理のないシステム導入をしたいものです。

飯田市の状況をお知らせします。法律に基づく飯田市・上村(かみむら)・南信濃村(みなみしなのむら)合併協議会が12月16日に設置されました。合併、新市の誕生に向け協議を進めていくことになりました。

11月1日現在の世帯数・人口総数

飯田市	36,814世帯	106,792人
上村	314世帯	773人
南信濃村	910世帯	2,192人
計	38,038世帯	109,757人

長野県ホームページから



上村 <http://www.kami-vill.jp/>



南信濃村

<http://www.minamishinano.jp/>

これまでの経過は飯田市のホームページをご覧ください。そして、一度ふたつの村のホームページもぜひ...

遠山郷(上村・南信濃村)で湯立祭り「霜月まつり」

山の木々が落葉して雪が舞う12月になると、遠山谷の12か所の神社では夜を徹して遠山霜月祭が行われます。この祭りは太陽が衰弱する冬至のころ、聖なる湯を神々に捧げて人や自然のあらゆる命の蘇生を祈る湯立神楽です。今年は23日の遠山天満宮が最後です。素朴な祭です。来年は早めに日程を調べて遠山谷へ。



<http://www.minamishinano.jp/simou/touyama.html>

上のホームページでも紹介されています。霜月祭は神々が湯治に訪れるという宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」のアイデアのモデルとなった祭りだそうです。舞台となる不思議の町に建つ油屋という湯治場には、人間たちだけでなく、人間たちの信仰する八百万の神々が訪れる。神も疲れて湯治にやって来るといふ人間くささがあります。山里の不思議な祭です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



ISO14001 規格改訂研修会 研究会:主催、県保全協会:共催

12月18日土曜日、飯田市役所の3階会議室でISO14001規格改訂セミナーが行われました。このセミナーは(社)長野県環境保全協会からの助成を受け研究会が主催したものです。参加者は43人、研究会から23人、共催した県環境保全協会飯田支部など地元企業から13人、上田市から5人、松本市と新城市から各1人。



地方でも本格的な研修を 講師はJABの寺部哲央部長

セミナーは9:00から16:00まで途中昼食を除き6時間で行われました。講師は(財)日本適合性認定協会(JAB)システム推進部長の寺部哲央さん。寺部さんは同じ会場で約2年前の2003年1月23日にも話をしてくれました。飯田市役所の審査登録から自己適合宣言への移行式において、その厳しさと難しさを検証してくれました。今回は11月15日に改訂となりましたISO14001の話。



ISO14001の日本規格JIS Q 14001は暮れの12月27日発行予定です。地域ぐるみ環境ISO研究会は規格改訂の本格的な研修をこの地でいち早く開催しました。このセミナーには3つのこだわりがありました。第1は私たちの住んでいるこの地域で開催するという。東京や名古屋などに行かず、余分な時間と旅費を遣わずに済みました。第2は研修機関や審査機関で行われている研修に匹敵する本格的な内容のものにすること。6時間と時間もしっかりかけました。第3は研修参加費は無料とすること。おかげさまで今回は県保全協会の援助を受けて無料でできました。しかし、たとえ無料でなく無理のない参加者負担でできそうです。内部監査員の本格的な養成も研究会として、この地でしたいものです。

2004年の規格改訂は 要求事項の明確化 ISO9001との両立性の向上

ISO14001規格は1996年版の全世界での運用経験を基に要求事項の表現がわかりやすくなりました。追加要求はなく次回の改訂にまわされました。要求事項の実質的な強化・拡大と言われます。しかし、規格の背景や本来の目的に反するような安易な解釈を許さないように厳しくなっただけとのこと。寺部さんは規格の背景を時間をかけて説明しました。正しく理解し運用している組織にとっては2004年改訂は影響ないとも。

実際の運用面での整合を期待してISO9001規格との両立性が図られています。多くの定義や要求事項の記述でもISO9000から引用されています。企業が利益を出し続けていること、企業の本来の活動を大事にすることが環境マネジメントシステムの運用の大前提と強調しました。

マネジメントの関係は
組織のマネジメントは一つ!



要求事項の実質的な強化・拡大としては3つが上げられています。法的・その他の要求事項の順守について管理の強化、適用範囲の全ての環境側面を考慮、環境側面への間接的な管理・対応の徹底、です。

セミナー6時間はあっという間 主催者からの修了証を交付



長いかなと心配していた6時間は短く感じられました。5~10分と途中の休憩時間も短い。それぞれがISO14001の改訂内容を事前に勉強してセミナーに臨んだため?

これが重要なんですよ セミナー終了後は交流会



ISO14001はマネジメントの仕組みについての規格。仕組みについての要求事項はありますが、では組織が具体的に何をすればいいということは何も書いてありません。大事なものは規格の背景や目的を理解し一番効果的な取組をその組織が決めること。セミナーでは参加者からの質問も多く出ました。規格の用語の使い方や解釈に終始することなく全体から改訂内容までに及ぶものでした。

そして終了後はみんなで交流会。研究会にも新しい仲間が加わりそうな、とても熱心で楽しい1時間でした。

国産間伐材を原料に紙容器 協賛ポッカコーポレーション



セミナー参加者には国産間伐材を原料とした「カートカン」のセットを提供し実際に飲んでもらいました。

信州サンコーポレーション(株)(株)ポッカコーポレーションの協賛です。飯田市役所へ説明にきた折、このセミナーのことを話し提供してもらうことになりました。異業種の多くの企業が集まるこの機会、説明よりは先ず紙容器に触れ、飲むという体験が大事と考えました。スチール缶などに比べまだ課題もありそうですが市では林務課が導入を検討しています。これも問題提起。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tanagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「循環・共生・参加まちづくり表彰」 飯田市が受賞

今年度は19都府県により推薦された全国24団体から10が選ばれました。この表彰は、環境の恵み豊かな持続可能なまちづくりに取り組んでいる地域が対象です。地球環境問題からリサイクル対策まで多岐にわたる地域の課題を視野に入れ、住民・企業等との協働を進めていく。そうした地域に根ざした活動を一層推進する上で、他地域での取り組みに役立つ模範を広く示し、表彰により励みとしていくものです。

10団体は次のとおりです。岩手県釜石市・岩手県葛巻町・東京都北区・富山県立山町・岐阜県多治見市・愛知県田原町・奈良県川上町・岡山県大佐町・熊本県熊本市。飯田市と縁のある自治体も多くあります。同じくエコタウン地域指定を受ける釜石市。自治体環境グランプリや元気大賞での葛巻町。現在調査票を作成中の環境首都コンテスト第1位の多治見市。6日が表彰式です。

受賞理由には研究会による 独自のEMSの構築・普及も

環境省のホームページで賞の表彰団体の概要として次のように紹介されています。研究会も登場します。
<http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=5470>

「天竜峡エコパレープロジェクト」による環境産業の誘致・育成や「地域ぐるみ環境ISO研究会」による独自の環境マネジメントシステムの構築・普及など、多くの先進的な取り組みが実行されている。それらの取り組みが市民や事業者、学校などの様々な主体の参画により実行されている。また、安価で幅広い普及を目指す独自の環境マネジメントシステムをはじめ、「ぐりいんだ」認定事業、エコツーリズムの推進など、環境と経済の統合に向けた取り組みが行われている。

選考における観点は5つ。環境(循環・共生等)施策、地域の活性化(まちづくり、環境と経済の統合)、地域の特徴(課題)の活用、実践的な活動、住民・企業等との協働。評価され表彰されるとはいえ、飯田市の課題ばかりのような気がします。

多摩川精機株グリーン調達で 南信州いむす21の普及を

会の代表・事務局長を務め、地域の環境改善活動をリードする多摩川精機株。新年度が始まる11月21日に「グリーン調達ガイドライン」を出しました。取引先とのパートナーシップによるグリーン調達で循環型社会を進めるもの。環境に関する取り組みを調達基準に加え、満たす取引先から優先的に調達するものです。

「環境マネジメントシステムを構築し環境保全活動を実践している」その環境マネジメントシステムとは、ISO14001の認証取得、国・地方自治体等が独自に推進する環境マネジメントシステムの認証取得。「エコアクション21」「エコアクションながの」「エコステージ以上」「KESステップ2」「南信州いむす21」、上記の未取得でも独自の基準で必須4項目など70点以上の取り組みです。



環境改善活動は本来自発的であるべきと、これまで「南信州いむす21」の積極的な展開を控えてきました。しかし、研究会が構築し、2001年10月に「南信州いむす21」を稼働させてから3年余が経ちました。

全国各地で独自のEMSが運用されています。それらはISO14001と競合するのではなく補完するものです。お互い一定のレベルを認め合う「相互認証」も進むでしょう。相互認証に耐えうるよう「南信州いむす21」にも現在の初歩的なレベルの上位に2つのレベルを構築することになっています。

グリーン市場の創出が不可欠 富士通株の古賀剛志さん

11月26～27日に行われたJAB主催のISO14001シンポジウム。富士通株環境本部の古賀剛志さんから多くのヒントとなる話を聴きました。

環境ISOを道具から武器へ展開する富士通グループ。グリーン市場創出によるバリューチェーンの創出。自社だけでの取り組みでは限界、取引先の協力が必要とサプライチェーン全体での取り組みを進めています。さらに事業活動だけでなく購入者(社会/生活者)の環境意識といったグリーン市場の創出が不可欠であると。

920社を対象とした環境マネジメントシステム構築説明会。3つのレベルはレベル(環境保全活動の自己チェックと行動目標の設定)、レベル(富士通環境マネジメントシステム:FJEMSの運用)、レベル(ISO14001等の第三者認証取得)。からへ、からへのレベルアップも多いそう。

多摩川精機株のグリーン調達にも関連する話です。2年前にも、このシンポジウムに参加する機会をいただき、その時のご縁で古賀さんには私たちの活動のアドバイスをいただいています。あの富士通でさえ、取り組みは事業所の「点」でしかないと言われていたのには驚かされました。飯田の地で経営者の皆さんに古賀さんの話を聞いてもらう場面を作りたいと強く感じました。

JABシンポジウムでの4つのワーキンググループなどでの結果は東京ビッグサイトで2月9日に行われる「JAB環境ISO大会」でも報告されます。

ISO14001規格改訂研修会 JABの寺部哲央部長による

1996年版のISO14001の規格が改訂となり、11月15日に2004年版が発行されました。日本語のJIS Q 14001は12月27日に発行予定。

研究会主催で規格改訂研修会を12月18日(土)に行います。講師は飯田市役所の自己適合宣言移行式で自己宣言の厳しさを説明いただいたJABの寺部哲央部長。規格改訂の経過、2004年版の改訂のポイントと要求事項、移行のための手順など、研究会事業所などを対象にこの地で終日しっかり行うことになりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



ふるさと飯田のために



飯田市長 牧野光朗

時代はまさに大きな転換期

産業経済人としての経験を

この度飯田市長に就任しました牧野光朗です。今年の3月まで日本政策投資銀行に勤めており、内外の地域づくりや産業振興に携わって参りました。日本の地域が大きな転換の時期を迎えた今こそ、私の経験を故郷飯田のために役立てたい、と考えております。

時代はまさに大きな転換期にあります。グローバル化、少子高齢化、情報化、国民の価値観の多様化など、私たちがこれまで経験したことがない変化が急速に進んでいます。地方行政を取り巻く状況も、例外ではありません。戦後、全国総合開発計画の名の下で進められた国の地域政策の基本理念は「地域間格差是正」でした。日本の国土のどこに住んでいても、どんなに山の中や離れ小島であっても、ある程度の生活ができるよう、国が下支えをしていくという考え方でした。

格差是正から地域間競争の時代に

「国の下支え」に頼らない自立を

ところが、バブル崩壊により右肩上がりの時代が終わると、国には膨大な借金が残りまし

た。隠れ借金も入れると1千兆円とも言われています。借金を減らさないと国の経済がガタガタになりかねない大変深刻な状況です。仕方なく、国は三位一体改革の名の下に、これまでの地域政策を転換せざるを得なくなりました。「国の下支えはもはや難しい。自立していける地域は自立していきなさい。自立できそうにない地域は自立していきなさいに助けてもらっていきなさい」という考え方です。即ち「地域間格差是正」から「地域間格差容認」へ、国の地域政策の理念は大転換され、日本の地域はどこも、好むと好まざるとに関わらず、地域の総力を賭けた地域間競争の時代に急速に入ってしまった。

飯田市の生き残りをかけて

経済自立度を70%に

私たちの飯田市も例外ではありません。国の下支えに頼らなくても自立していける地域なのか点検してみると、飯田の経済的自立度は45%程度であることが分かります。これは大変厳しい数字と言わざるを得ません。しかも飯田のまわりには助けてもらえるような自立度の高い大きな都市はありません。飯田市はどれ程困難であっても、自らの足で立っていかなければなりません。熾烈な地域間競争時代に生き残っていくためには、これからの10年間で経済的自立度を何とでも70%程度にまで押し上げなければなりません。

「文化経済自立都市」!!

資源を資産に変えていく

従って私は、これまで掲げてきた「環境文化都市」の良い理念を継承しつつ、飯田を大幅にパワーアップさせて「文化経済自立都市」の創出を目指す所存です。幸い飯田市は、小さくて

も多種多様な産業基盤、豊かで美しい自然など、国内外に誇りうる優れた基盤を持っています。これらの資源を真に活かし、資源を資産に変えていくことができれば、市民一人ひとりが住み良さを実感でき、誇りを持って未来を語ることのできる地域づくりにつながるはずで

「株式会社飯田市役所」で 自主財源の確保を

国の下支えに頼らなくても、これまで同様、あるいはそれ以上の行政サービスを市民の皆さんに提供していくためには、どれだけ自主財源が確保できるかが決め手になります。これからは「株式会社飯田市役所」の発想が必要です。どうしたら税収を伸ばすことができるのか、どうしたらコストを削減できるのか、行政が民間会社のように自ら考え実行していけば、必ず財源は出て来ます。市役所は、言ってみれば市内最大のサービス産業ですから、サービス業のプロとしての自覚を持ち、銀行やホテルに負けないくらいの良質なサービスを市民の皆さんに提供していかなければなりません。

人と人とを結び、心と心を結び

「水引型地域経営」を

私としても、これまでの産業経済人としての経験と内外に構築した人的ネットワークを活かし、人と人とを結び、心と心を結び「水引型地域運営」に尽力していく所存です。

どうぞ宜しくお願いします。

今日は「いい夫婦の日(11:いい 22:ふうふ)」の日。通信 90 という区切りに「結いの田」「いい田」の新市長の登場です。研究会もふるさと飯田のために市長とともに...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp

生活と環境まつりに 今年も出展

11月6～7日に開催された「生活と環境まつり2004」に研究会として今年も出展しました。88でお知らせしたように、研究会の活動を知ってもらうだけでなく昨年に引き続いて親子で自然と触れ合う「どんぐり・間伐材工作コーナー」を開きました。



このコーナーは2日間とも終日大盛況。当番の研究会実務者からは「信州環境フェアでもやろう」という声がありました。7月のイベントで「どんぐり」に代わるものは何でしょう...? アイデアをお寄せください。



県環境保全協会長も来場

6日には長野県環境保全協会の茅野實会長を迎えて「脱温暖化! タウンミーティング」と題したノーマイカーへの意見交換会が行われました。

茅野会長から、打破しなければならない現在の地球環境などの問題提起がされ、続いてこの地域の事業所の取り組み事例が発表されました。研究会の中にも驚くほどの取り組みを展開している事業所があります。この地域では自家用車から発生するCO₂がとても多いことはよく知られています。研究会事業所への通勤車両は何台になるでしょう? 1日どれく

らいCO₂を排出しているでしょう? 先進的な取り組みを研究会も取り上げて広めていきたい課題です。

米村でんじろうサイエンスプロダクション おもしろサイエンスショー



テレビや雑誌などでおなじみの、米村でんじろうサイエンスプロダクションのチャーリー西村さんによるサイエンスショーには研究会の実務者もスタッフとして裏方を務めました。ここでも多くの親子から歓声や驚きの声が上がりました。「高価な機材や装置を使えば誰だって観客を驚かす実験はできる。来場者が家に帰って家族で挑戦する気になるようなことで、子どもを科学好きにしていこう」という信念を持っているチャーリー西村さんは90分の公演を終えると、その足で自然エネルギーシンポジウムの会場に向かいました。



自然エネルギーシンポジウム

まず、チャーリー西村さんから、「自然エネルギーを石油エネルギーなどの代替えとするには、まだ技術不足。これからの技術を支える技術者の多くは今の子どもだから、この子どもたちの科学離れを減らし、科学好きを増やすこ



とで自然エネルギーの発展につなげたい。」との思いが語られました。

続いて経済産業省資源エネルギー



庁の中島恵理さんから、日本の自然エネルギー活用状況や先進例などをお聞きしました。「太陽光発電に関しては世界の中でも日本がダントツ、

その中でも飯田市はトップクラスにある。」とのエールもありました。

杉山さかえさんが理事長を務めるNPO 法人北海道グリーンファンドは、「グリーン電気料金制度」による基金を柱に全国初となる市民風力発電所を建設しました。現在はこの活動を東北地方にまで展開しています。



NPO 法人南信州おひさま進歩の原亮弘事務局長からは、これから展開する飯田での市民発電の構想などが語られました。その後も、ぜひ参考にしていきたい北海道の事例などでシンポジウムは閉じられました。実践に移らなければならない時期は「今」である、と痛感させられました。



今日11月10日は、「かわさき市民アカデミー」の12人が来飯され、午後からEMSなどについて意見交換をします。次号に、

お気づきでしょうか? 「くるみ」ではなく「どんぐり」を主体に生活と環境まつりに出展したことをお知らせしたこの89は「どんぐり通信」としました。...それだけです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



ISO14001 規格改訂の情報交換 環境 ISO 研究会の本領発揮

今年 12 月に予定されている ISO 14001 の規格改訂。移行には 6 月の並存期間と 12 月の移行期間が用意されています。運用している事業所にとっては現在のシステムからどのタイミングでどのように移行するかが悩みです。研究会全体としての研修も計画していますが各事業所の担当者も審査機関等の研修会や説明会で得る情報を交換しています。そして具体的な準備に移っています。

卸売団地内の食品会社から 南信州 いむす 21 取組宣言

飯田市卸売団地の中にあるトキワフーズという会社から「南信州 いむす 21」取組宣言が 11 月 1 日に出されました。10 月に社長から具体的な説明を聞きたいというので会社へ訪問し現場を見ながら話をしました。もちろん課題はありますが環境への思いが取組宣言につながりました。

実は卸売団地内にも店を持つ飯田駅前商業会ガーデン 4 の安藤さんの尽力で 7 月 9 日に団地内で説明会をしました。しかし説明後の反応から、まだその段階ではないという感じでした。少々気落ちしていましたが話が合ったときは本当に喜びました。これがきっかけとなって団地内でひとつの拡がりになっていけば嬉しいですね。

11月6・7日「生活と環境まつり」 準備のため土曜日にみんなで作業



研究会も実行委員として関わる週末の「生活と環境まつり」。展示ばかりではつまらない、楽しめるもの、触れ合いのできるものをと昨年からはどんぐりを使った工作コーナーです。

その工作の材料づくりの作業を 30 日(土)に行いました。間伐材や雑木を丸のこやノコギリで切ります。当日の材料とはいえ、そのものが作品になるほど熱が入ってしまいます。

ただ今年はこの地域にもどんぐりが少なく、お茶の実や中部電力のダムに流れ着いた「くるみ」というどんぐり?も登場予定。

このまつりには昨年 8 月水俣市での「牛乳パック再利用全国大会」以来、ご縁のある日本テトラパック㈱の出展もあります。環境自治体会議 いだ会議にも出展いただきました。アルミ紙パックの回収もようやく実施にむけ地元のスーパーで準備中です。環境面でまたひとつ新しく動き出しました。

「環境自治体会議 いだ会議」 報告集作成も最終段階です

5 月 26・27・28 日に行われた環境自治体会議 いだ会議のまとめも最終段階に入っています。これまでのようなテブ起こしによる全文ではなく、今回は要旨の報告集と詳細の音声 CD といったものを予定しています。全国から参加者していただいた皆さんに早く届けようと作業を進めています。もう少しお待ちください。来年の第 13 回会議は 5 月 25・26・27 日に東海村で開催され、11 の分科会テーマも東海村らしいものです。

いだ会議のポスターになった天竜峡もまだまだですが秋の色になっています。



講演会「域産域消のまちづくり」 高野町助役高橋寛治さんから

和歌山県高野町の助役はこの 3 月まで飯田市産業経済部長だった高橋寛治さん。面識のなかった 47 歳の町長から突然請われ、その情熱と人柄に惚れ 10 月から高野町の人に。以前に受けていた講演会が飯田で開かれました。80 分、飯田での農・林・商・工のまちづくりの実践とその根底の理念を熱く語ってくれました。

時計とネクタイを外した生活をしようとした高橋さんが取り組む人口 4500 人の高野山と空海さんの町での世界遺産を中心とした新しいまちづくり。飯田では当たり前のこと、それがどんなに進んでいるかを痛感したといえます。まさしく歴史ある環境文化都市の中でさっそく生き生きと地域の中に入り込んでいる、頼もしく感じました。

講演会に参加していた松川町の職員から「取り組んでいる南信州 いむす 21、年内には登録したいので…」嬉しかったですね。

山田洋次監督の「隠し剣 鬼の爪」 殺陣シーンは飯田の大平宿で

山田洋次監督・藤沢周平原作の映画「隠し剣 鬼の爪」の先行上映会が飯田の千劇シネマズで 10 月 28 日の夜行われました。長瀬正敏さんと小沢征悦さんとのクライマックスの殺陣シーンは飯田市の大平宿で撮影されたものです。飯田市出身の長沼六男カメラマンが 10 年前から使っていた大平宿。山田監督を 2 度下見に連れてきての実現となりました。



多摩川精機株から猿庫の泉 そして大平宿へと続きます

研究会萩本代表が社長を務める多摩川精機株は風越山の麓にあります。ここで 5 月に行われた環境自治体会議の第 3 分科会が開かれました。会社への道「大平街道」を山の方、木曾へどんどん上っていくと大平峠、そして今は無人となった大平宿があります。



その途中、会社から少し行ったところに名水百選の「猿庫(さるくら)の泉」があります。水はもちろん、喜久水酒造から売られています地酒「猿庫の泉」も美味しいですよ。



今回は自慢話のような元気の飯田の話題をいくつか軽く紹介しました。元気な飯田はいろんな人たちによって作っていくもの。研究会もその活動を通じて環境面から、そして経済面から仕掛けていきたいですね。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



新しい牧野市長の飯田市政 研究会も確実な新しい挑戦へ

研究会代表 萩本範文



パワーアップ「文化経済自立都市」!! 牧野光朗(43)飯田市長が誕生

10月24日行われた飯田市長選挙で16年ぶりに新しい市長が誕生しました。43歳の牧野光朗(まきのみつお)市長です。日本政策投資銀行での19年間の国内、海外で地域づくりの経験と人脈を生かして飯田をパワーアップしたいと「産業振興」を前面に訴えてきました。国の三位一体改革により画一的な行政から脱却するこれからの時代、地域間競争は激しくなります。トップセールスマンとして飯田に人材・外貨・資本を呼び込むとして4人の大混戦を制し当選を果たしました。

若者が住みたいまちへ

まちづくりは産業の活性化から

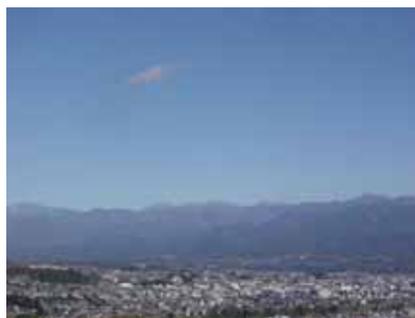
新しい牧野市長は45%ほどの飯田市の経済的自立度を70%に引き上げる「文化経済自立都市」をめざしています。外に出て行かざるを得なかった子育て世代が安心して飯田に住めるようにしたい。自分の子どもたちが同じ地域に住むことで高齢者は安心して暮らせる。若い担い手の確保でふるさとの保全や地域文化の継承も可能となる。そのために市長の役割も大きく変わり、しがらみに縛られず民間の経営感覚で市政を運営する、と。



美しいけれど財政難で環境のためにガマンや節約だけを強いるまちに若者が住みたいと思うでしょうか。活力のあるまちづくり、収入の安定する希望のあるまちづくりを手遅れでない今、始めなければなりません。

「環境文化都市」からのパワーアップ!! 経済と環境、二者択一ではない

私たち「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」は97年11月発足以来「新しい環境改善の地域文化を創造する」ことを活動理念としてきました。環境改善活動は会社という限られた場所や時間の中だけでは不十分です。限られた会社だけでなく多くの企業にも参加いただく「点」から「面」への「ぐるみ運動」を展開してきました。それは、市が掲げる「環境文化都市」を進める上で、この地域が元気になるための仕掛けのひとつに過ぎません。



経済か環境か、これらは二律背反の関係にはないことは言うまでもありません。産業が元気になるといっても高度成長期のときのような使い捨て時代に逆行するものではありません。今まで進めてきた「環境文化都市」の精神の上に自分たちの地域を自慢できるまちにしていく必要があります。

研究会発足から丸7年 地域の元気につながっているか

研究会も丸7年になりました。その活動がようやく地域に認められ理解を得られるようになってきました。地球環境大賞はじめ外からの評価も高まりました。しかし、私たちの活動が本当に地域の元気につながっているのでしょうか。地域を動かすような成果が出ているかといえば、まだまだムードに頼った取り組みの域です。

研究会には牧野市長が代表を務める市役所という行政もあります。しかし現在の27事業所の中心は民間企業です。民間企業にとっては、この地域に外貨をもたらすことが地域に貢献することに他なりません。

“日本の地域経済再生を” 研究会SVJで牧野市長と

牧野新市長と東京で初めて会ったのはバブル崩壊で経済が大きな痛手を受けこの先日本はどうなるだろうかとたいへん気を揉んでいた頃です。東京で日本の地域経済を何とかしなければいけない、日本の将来のために、地域の産業振興を考えようそのために、政策研究会を立ち上げよう。中央官庁の感度の高い若手職員から95年頃その呼びかけは起こりました。「SVJ」(シリコンバレー・ジャパン)という研究会を立ち上げました。

80年代の大変な不況を乗り越え奇跡の復活をし世界に名だたる元気な地域シリコンバレー。アメリカの元気の秘密を研究すれば日本の経済再生の糸口が見つかるかもしれない。そのモデルを日本の停滞する地域に移入しようと考え約30人の若者で東京で立ち上げました。私は地方からの「たった一人」の参加者で最も年長。そのとき日本開発銀行から参加してきた若者それが牧野市長だったのです。

その研究会「SVJ」は少し前に解散しました。しかし、そのときの同志はいま全国に散って、各方面で、高い立場で地域のために奮闘しています。

研究会も原点にもどりパワーアップ まちへ環境でインパクトを

研究会は地域での技術力を高めるための3社現場改善研究会(オムロン飯田・平和時計製作所・多摩川精機)がもとになっています。環境技術開発センターも活用し改善研究会も他の企業と連携し新しいビジネスチャンスを生み出していかねばなりません。多くの従業員を雇用する企業が今こそ、がんばらねばなりません。

力を持った企業が地域の元気につながるようなインパクトのある活動を展開していかねばなりません。地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす 21」も研究会事業所のグリーン購入などで大きく普及すべき時期に来ていると考えます。研究会がまず発足時の初心にもどり地域のリーダーとして多くの仕掛けをしていきましょう。若くエネルギーな牧野市長とともに「文化経済自立都市」づくりに汗を流しましょう。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



環境を考える経済人の会 21 「B-LIFE21」って知っていますか

この会を知ったのは2001年6月、長野市での「環境ISO+ゼロエミッション特別講演会」でした。会の事務局長を務める三橋規宏さんから企業のひとつの流れを紹介され知りました。



「B-LIFE21」(Business Leaders' Inter-Forum for Environment 21)をホームページから抜粋し紹介します。
<http://zeroemission.co.jp/B-LIFE/>



「環境を考える経済人の会 21」は、経済人の環境 NGO、産業界を代表する経営者 16人で結成しています。環境に関心を抱く経済人が自由意思で参加している非政府組織です。

企業トップが変わり、 大企業が先兵となり、企業が変わる

持続可能な経済発展に向け資源循環型社会への転換が急がれています。消費者、企業、行政など経済社会の構成員がそれぞれの立場から循環型社会づくりに立ち上がらなくてはなりません。その場合、経済活動の中心を占める企業が真っ先に変わる必要があります。とりわけヒト、モノ、カネに余裕のある大企業が先兵にならないければなりません。そして企業が変わるためには、企業トップが変わることが大切です。

企業経営において企業益の中に 地球の利益、地球益を反映させる

企業の目的は利潤の追求にあります。戦後企業は企業益を求めて事業を拡大させることで国民生活の向上に貢献してきました。しかし地球の限界に直面した 21 世紀には地球益という視点が重要です。地球益とは、地球の利益つまり自然環境をこれ以上悪化

させず、破壊から守っていくことを優先しようとする考え方です。

B-LIFE21 の目的のひとつが環境 NGO との対話促進です。多くの環境 NGO や NPO の考え方、行動原理は、地球益を出発点にしています。これからの企業経営に当たっては、企業益の中に地球益を反映させていくことが大切であり、そのためには環境 NGO と対話し学ぶことが必要です。

1年のうち何時間かは環境のことを考え 環境のために汗を流す

経済人の目的は企業益の追求にあります。1年のうちの何日か、何時間かは環境のことを考え、環境のために汗を流すことが必要です。環境問題が抱える多面的な問題を肌身で感じ、環境のために何ができるかを考え、経営の中に必要な対策を取り組んでいくきっかけになるからです。

97年1月に発足後、B-LIFE21は次のような活動を展開しています。環境 NGO 代表とのシンポジウム、環境 NGO 代表者をゲストに迎えての朝食会(毎月1回)、経済人自らが大学の教壇に立つ環境寄付講座の開設、一泊二日のシェルパ会議、日米環境派経済人・知識人会議の開催などです。

地方からの発信～地域ぐるみでの 環境文化都市への挑戦～ 朝食会でゲストとして話題提供



10月20日、このB-LIFE21朝食会で私たちの研究会そして飯田地域での環境の取り組みを発表しました。東京ガス、セコム、大林組、コスモ石油、富士ゼロックス、電気事業連合会、東京電力、アサヒビール、資生堂、荏原製作所、JR東日本のシェルパと呼ばれる環境部門トップの12人。そして三橋さんや地球・人間環境フォーラムなど事務局7人。これまでのゲストの名前だけでも気後れしてしまう中台風 23 号が近づくニューオータニでの緊張の時間でした。地域での研究会活動をさらに徹底したいものです。

やはり鋭い質問や意見も出されました。研究会全体で環境負荷への影響効果を定期的に把握すべきだ。熱心な企業、熱心な人がいるうちには継続していくのに問題は

ないのか。小さな事業所にとって、わかりやすい取り組みやすい具体的な活動をもっと提案すべきだ。豊かな自然とゆったりとした時間、東京からの時間など「地の不利」こそを売りにして地域に呼び込むべきだ。地に着いた活動に自信を持ってほしい。事務局の構想日本代表加藤秀樹さんからは終了後も多くのアドバイスをいただきました。



私たちは環境改善の地域文化の創造をめざしています。恵まれた自然環境のなかでの持続可能な地域づくりという様々な実験にも似た挑戦です。人材・技術・資金の地域内の還流だけでなく、外から呼び込みたい。この地域の潜在能力を高め、地域の活力につなげたい。それが願いです。

外からの評価を自分たちの自信・元気につなげたいと情報を発信し続けてきました。地域のイメージづくりではない。地域ぐるみでの具体的な行動こそが研究会の活動です。もっとがんばれとのエールを評価と勘違いしないで、地道な活動を展開していきます。

今年も実行委員として参加 「生活と環境まつり 2004」



<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/event/maturi/tirasi.pdf>

研究会は今年も「どんぐり」を通じたふれ合いにこだわっています。小枝や丸太など工作の材料の準備にこれから追われます。仲間とのこの準備こそが楽しいですね。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

p05300@tamagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



ロシアの批准表明で発効にむかう 京都議定書、採択の前月には...

1997年12月、地球温暖化防止へ温室効果ガスの排出目標などを定めた「京都議定書」が採択されてから7年。9月30日、世界3位の排出国ロシアの閣議で批准が決定されました。ロシアが批准すれば発効要件を満たし90日後に京都議定書が発効されます。排出量1位のアメリカの離脱、2位中国や5位インドといった途上国の免除など問題はありますが...

京都議定書採択の前月1997年11月、地域ぐるみISO研究会が6事業所で「地域ぐるみISOへ挑戦しよう研究会」の名で発足しました。京都議定書との不思議な縁さえ感じます。私たちの研究会も数々の評価と注目を受けています。大きな転機を迎えているのかも知れません。



(飯田からも先輩がCOP3に参加?)

美しい地球を子孫に残すための会費 環境税が温室効果ガスを減らす

環境省の田村義雄総合環境政策局長から「環境税等の地球温暖化防止のための施策について」という話を聞く機会を得ました。ロシア下院での手続きを経て京都議定書の発効は3月頃になりそうです。わが国の2002年度の総排出量は約7.6%増、6%削減約束の達成には2000年度から約13.6%相当分のギャップを埋めることが必要です。

地球温暖化問題の解決に向けて様々な手法が必要です。規制的手法、自主的的取り組み手法、補助金、税制優遇、税、排出量取引、京都メカニズム、技術開発、それぞれ長所・短所のあるこれらの手法を公平性・透明性・確実性・効率性の視点から組み合わせることで効果的に行われることとなります。

環境省が17年度の税制改正で導入しよう要望している「環境税」。産業界との調整など難航は予想されますが、ステップ・バイ・ステップのアプローチにより家庭生活も含め国全体が大きく動き出しそうです。

飯田市は温室効果ガス10%削減 「新エネルギー省エネルギー地産計画」

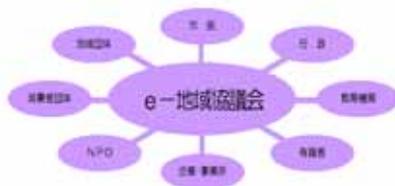
国の6%削減(実質的には13.6%)も工場などの産業、旅客・貨物などの運輸、オフィスビルから家庭までそれぞれの部門で排出量を削減しなければ達成できません。同様に、それぞれの地域、自治体でも具体的な目標を掲げずにはなく具体的な取り組みが求められます。飯田市では10%削減目標を掲げています。

飯田市の1990年の温室効果ガス排出量は735,000トンのCO₂/年。これを10%削減させ2010年に661,500トンのCO₂/年になるように努力していくこととなります。2002年の排出量は1990年比約1%減でしたので残り9%、66,103トンのCO₂/年の削減が必要となります。これを新エネルギー利用で約50%、省エネルギー推進で約50%の削減をめざします。

2003年から2010年8年間の毎年の削減量は毎年前年よりもさらに新エネ・省エネそれぞれで4,100トンのCO₂となります。

環境と経済の好循環まちづくり 「e-地域協議会」がカギ

「飯田市新エネルギー省エネルギー地域計画」の啓発と推進を行うのが「e-地域協議会」です。市民・地域団体・消費者団体・事業所・有識者・行政などで新しくつくる組織です。



飯田市が全国11(大規模6・小規模5)のモデル地域、大規模のひとつに環境省から選定された「環境と経済の好循環のまちモデル事業」。「平成のまほろば」まちづくり事業と呼ばれるものです。「環境と経済の両立」から「環境と経済の統合」、脱温暖化や循環型社会への挑戦です。地域の創意工夫と主体性がベースとなっていて、これを実質的に推進していくのもこの協議会なのです。

飯田市のめざす「まほろば、すぐれたよいところ・国、緑で豊かな美しく栄えたところ」は、次の6つ。公共施設を中心としたリーディング推進モデル、商店街 ESCO、太陽光市民発電、エコハウジングビレッジ、新たな交通循環システム、自然エネルギー大学校。日本だけでなく世界のモデル事業として、この地域の力が試されている、大きなプレッシャーです。この協議会がこの地域の今後の大きなカギとなります。

環境村小林家という集まり

「環境村小林家」の親族会議? が都内某所で開かれました。この会は94年に家長・料(おさむ・東京電力顧問)のUNEP(国連環境計画)グローバル500受賞をきっかけに、環境問題に取り組む【小林】を集めて純粋に交流しようと思ったものだそうです。

自治体環境グランプリ受賞を機に声をかけていただき初めて参加しました。今回は30人弱の集まりでしたが、肩書き・ジャンルを離れて環境について話し合うことの楽しさを味わいました。それぞれのスピーチも短いながら内容の濃いものでした。

さっと集まって交流し、さっと散っていく。秘密結社ではありませんが、ちょっと怪しいところもいっすね。名刺交換では「小林」ではなく、名を名乗るといっこれまた変な感じもいっすね。ひょっとしたら「環境村...家」という違う集まりもあるのかも知れません。なければ誰かを家長にしてくっつけてみるのも楽しいかも知れません。もちろん当日の写真はありません。

エコロジカルフットプリント

三橋規宏さんの環境コラム「SOS! 地球号47」で紹介されていました「エコロジカル・フットプリント」。

<http://www.cuc.ac.jp/~a240129/iso14001/>

Ecological

Footprint とは、ある限定された人間集団と物質的水準を維持するために必要とされる土地(と水域)面積。「もし、だれもが、アメリカ人のような生活をしたいと思ったら、そのための資源を生産し廃棄物を吸収し、生命維持機能を持続させるために、少なくとも、あと2つ、地球のような惑星が必要となる。残念ながら、ぴったりの惑星は見つけない...」



温暖化は「りんご並木」でも感じます。以前見かけなかったツマグロヒョウモンが多く飛んでいます。きれいでいいのですが。

飯田から新宿までは中央道を通る高速バスで4時間15分。日帰り往復は8時間半バスの中。この時間は自分の時間、寝て疲れをとるか、外の景色を見ながら考えを整理するか、読みたかった本を読むか...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



年後半の活動について課題を整理 研究会の実務者全体報告会



9月27日(月)飯田市役所りんご庁舎で研究会の実務者全体報告会が開かれました。研究会の活動の課題について約2時間話し合いました。実際の活動はありますが会議は5月10日の事業所代表者会以来です。

経過としてNPO「持続可能な社会をつくる元気ネット」主催「元気大賞2004」特別賞を受賞を報告しました。

ISO14001 規格改訂への対応

ISO14001(JIS Q 14001)の初めての規格改訂が年末に予定されています。これまでも研究会内で規格改訂状況、DIS、FDISなどの情報交換をしてきました。まずは主な改定内容、定義や要求事項の増、章番号の統合・変更などを確認。研究会各事業所がどのように改訂への準備を進めているか発表し合いました。

改訂の概要を経営層へ報告した、対応は新しい規格ができてからというのが大半。改訂後18か月以内に新規格への移行が求められるなか更新や定期審査の時期を考え移行時期を悩んでいるとのこと。しかし、同じテーマで話ができるのは嬉しいですね。

年内に研究会主催で外部講師による本格的な「規格改訂」研修会をこの地で開催することになりました。



基礎的な「南信州いいむす21」の グレードアップ版も改訂に合わせて

ISO14001を基本とした地域独自の環境マネジメントシステムの審査登録のしくみが「南信州いいむす21」です。2001年10月にスタートさせて(早? やっと?)丸3年。現在、取組宣言:92件(177事業所)、登録:45件です。未だに登録していない事業所に活動の継続・登録についての意向を打診することになりました。

現在の基礎的レベルの上に構築を進めている2つのレベル「環境省エコアクション21」そして「ISO自己宣言」。どちらも基本のしくみがもう少しで完成という段階、これらを待って検討することになりました。

三沢エンジニアリング株式会社を訪ねました

岩手県葛巻町での元気大賞授賞式の利用を、その前に少し足をのび飯田市と縁のある青森県三沢市と八戸市を訪ねました。そのひとつが三沢市にある機械加工と組立の三沢エンジニアリング株式会社。平内康秀課長が案内してくれました。

社長(平内さんの父)が多摩川精機株式会社に10年勤め、飯田市で独立起業し、その後54年に出身の三沢市に移りました。多摩川精機株式会社の従業員125人はすべて地元の人。



三沢市には農業と建設関連が多く100人規模の製造業は数社とのこと。平内さんは飯田の明星保育園に通い、小学校からは三沢市、多摩川精機でも働きました。従業員でも働き方も飯田と三沢の地域性の大きな違いを感じるそうです。NPO「南信州おひさま進歩」が市民太陽光発電第1号を設置したのが明星保育園、おもしろいですね。

多摩川精機株式会社八戸事業所



三沢エンジニアリング株式会社を契機としてできた従業員140人の多摩川精機株式会社八戸事業所も訪ねました。萩本博事業所長と杉浦秀稔さんが説明してくれました。飯田の大きなモーター、自動車関係、光式センサーに対して八戸では小さなモーター、電車関係、アナログセンサーと機能分担。遠く離れた八戸、こちらも賃金や従業員はじめ地域の特殊性がありました。



八戸駅には八戸三社祭の豪華な山車が、祭の元気がまちの元気につながれば..。

市民と環境 NGO の集い



10月3日(日)「環境NGOと自治体とのパートナーシップ活動の現在とこれから～地域の実践から考える～」に参加しました。キャンパスプラザ京都での環境NPO「環境市民」(萩本育生代表理事)主催の近畿地区の環境NGO交流会。パネルディスカッションでの事例発表はエコネット津山の西村悟さん、多治見市の仙石浩之さん、機構ネットワークの田浦健朗さん、NPO高知市民会議の内田洋子さん。

津山市では環境基本計画を環境市民会議(公募市民40人)で策定。「環境市民」のコーディネートで2年間に何と141回というワークショップ中心の委員会を開催。市民会議は既存のエコネット津山に発展的合併をしてごみ問題などに取り組んでいます。



午後からは5つの分科会のうち「循環型社会形成と総合的な環境保全活動」に参加。環境市民や滋賀グリーン購入ネットワーク、菜の花プロジェクトネットワークなど6つの事例発表から協働について考えました。

岡山県津山市 管理職の研修で

岡山県津山市は飯田市と市政提携都市です。10月4日(月)津山市役所の管理職研修として飯田市の環境マネジメントの展開を発表しました。

ISO14001自己適合宣言、その透明性・客観性を担保する相互内部監査は研究会はじめ地域と連携があっできるしくみです。マニュアルなど津山のシステムはしっかりしていて改善の参考になります。やはり嬉しいのはその後の交流です。津山でも..。



機会あって遠い八戸と津山を訪ねることができました。偶然のように思える「縁」にも偶然はなく、コツコツと築きあげてきたものでした。やはりつながっています。そんな縁ゆえにさらに深めたいものです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



持続可能な社会をつくる元気ネット 元気大賞 2004 特別賞を受賞



会場のグリーンテージ(岩手県葛巻町)

9月25日(土)~26日(日)岩手県葛巻町で「環境と経済の好循環のまち全国サミット in くずまき」が行われました。NPO 持続可能な社会をつくる元気ネットの主催でした。25日には元気大賞 2004 の授賞式があり研究会の「地域ぐるみで環境文化都市へ挑戦」は特別賞をいただきました。<大賞1>NPO 地域づくり工房(長野県大町市) <奨励賞2>糸魚川レンガ車庫保存・活性研究会(富山県) 附地農楽校(広島県) <特別賞3>地域ぐるみ環境 ISO 研究会, びん再利用ネットワーク(東京都), 千里リサイクルプラザ研究所(大阪府)。

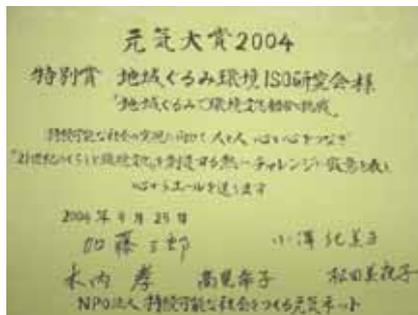


葛巻町のトップセールスマン中村哲雄町長「市民が創る環境のまち元気大賞」は全国各地での市民・事業者・行政が手をたずさえて元気な地域社会を作っていくこととする動きを応援する表彰制度。「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」葛巻町は前回の受賞を受賞。元気ネットは大賞の地を訪ね、その地の素晴らしさを体験し全国の仲間との新しい交流を深めていくことをめざしています。



表彰式では受賞団体がそれぞれの活動を紹介しました。全国各地の発表者のだれもが元気。やはり元気な地域の元気な活動は元気な人たちが作り上げているものです。

熱いチャレンジへのエール



賞状には審査員全員のサインが書かれました。「持続可能な社会の実現に向けて人と人 心と心をつなぎ「21世紀の暮らしと環境文化」を創造する熱いチャレンジに敬意を表し心からエールを送ります」そうです受賞はエール。研究会にまたひとつ新しいネットワークという宝物が増えました。



沢柳事務局長が研究会の活動を紹介

ワインと牛乳で参加者交流会



元気ネットのスタッフの皆さん参加者交流会ではNPO 地域づくり工房の傘木宏夫さんの発声で乾杯。もちろん葛巻ワインです。力強く乾杯しているのがご存知、葛巻町の元気職員、下天広(しもてんま)浩さん。とんでもなく元気な町長・議長・職員がこの葛巻町の元気を作っています。



交流会は宴会場から食堂へ部屋へ。こういう交流の機会がなければ会えない、話ができない人たちの楽しいネットワークもできました。「牛乳」でも盛り上がりました。

全国サミット in 子どもフォーラム

2日目は子どもフォーラムから。葛巻小学校6年生の7人が「温暖化防止・私たちのできること」として学校から家庭へと広がる省エネ活動を元気よく事例発表。「森と風のがっこう」永留百合さんは「もったいない。ありがたい。おかげさま - エコスクールとしての実践」。ビデオでエコスクールを終えた男子が嬉しそうに話していました。「僕たちにもまだできることがあると思う」と。イオン(株)北日本カンパニーは全国各地での「こどもエコクラブ」の活動を紹介。



環境と経済の好循環のまち 円卓会議

円卓会議では研究会は「コミュニティビジネスの発展に向けて」というサブテーマで事例発表しました。環境と経済の好循環、各地でのさまざまな取り組みには何らかの仕掛けがあります。そしてその仕掛けには必ず複数の仕掛け人がいて、それを支えているのは情熱であり元気です。



この土日、葛巻町は秋祭りのまっ最中でした。町中が祭一色といった、これまた元気な祭でした。この元気な葛巻町に不思議な縁があって今年2度も訪ねることができました。坂村真民さんの「念ずれば花ひらく」。まずは夢見ること、その夢を念じ続けること、そして夢の実現のための具体的な一歩を踏み出すこと。遠い葛巻の地でその大切さをあらためて感じてきました。元気ネットの崎田裕子さん・鬼沢良子さんはじめスタッフの皆さんお世話になりました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



第12回環境自治体会議いだ会議 最終の実行委員会

5月26～28日の3日間行われました第12回環境自治体会議いだ会議の最終の実行委員会が9月17日に開かれました。昨年9月26日に実行委員会を立ち上げ組織や役員を決めてから約1年、全体では8回目にあたります。この間にも実行委員会に提出する議題や計画案などを計8回の企画委員会で検討してきました。お世話になりました。

会議から約4か月、予想以上に会計の締めなどに時間がかかり、まとめの会議がこのような運びになりました。これまでの会議を行ってきた自治体の苦勞をあらためて理解できました。そして、12回を数える環境自治体会議の意義も理解できました。



松島信雄実行委員長から。反省すべき点は多々あるが実行委員の皆さんの協力により地域ぐるみで成功させることができた。

「環境文化都市」飯田を全国にアピールすることができた。会議そのものを通じて明日につながる有意義な情報交換ができた。たくさんの市民が参加して環境に対する意識を高める機会になった。市民と行政が一体となって今後の大きな力となった。この会議をゴールとするのではなく、会議に向けた市民活動を地についたものにするため皆さんのバックアップをお願いしたい。



田中秀典市長から。今回の会議の特徴は市民参加の実行委員会が主体となって企画準備から当日の運営までできたこと。民間企業を分科会会場にするなど手作りの会議が多くの参加者から高い評価を得た。全国の先進事例に学び大きな刺激・参考となった。また市民と事業者と協働した取り組みの発信にもなった。今後ますます市民・事業者・行政のパートナーシップを深め、環境改善活動が展開されることを期待する。

3日間のべ2,935人の参加者

総額11,490千円の会計報告

2,935人という参加状況の内訳。
5月26日全体会議 1,150人
5月27日分科会 1,035人
分科会 ごみの減量 174人 / 分科会 エコ交通 75人 / 分科会 環境マネジメント 102人 / 分科会 新エネ・省エネ 142人 / 分科会 山・森林 107人 / 分科会 水環境の整備 90人 / 分科会 環境教育 109人 / 分科会 ツーリズム 46人 / 分科会 農業と食文化 96人 / 分科会 景観づくり 94人

5月28日全体会議 750人
収入・支出それぞれ11,490,091円の会計報告はつぎのとおりでした。

(収入) 参加費 7,268,080円(全国321人・地元489人) / 負担金 2,100,000円(市・県) / 協賛金 2,120,000円(事業所等) / 雑収入 2,011円

(支出) 報償費 203,000円(謝礼) / 賃金 100,000円(報告書) / 旅費 78,080円(打合せ) / 消耗品費 1,943,283円(記念品・表示) / 食糧費 2,713,735円(弁当・交流会) / 印刷製本費 2,066,849円(ポスター・パンフレット・会議報告書) / 通信運搬費 8,178円 / 役員費 64,800円(保険) / 委託料 2,339,250円(登録事務) / 使用料 1,965,461円(パス等) / 手数料 7,455円

事務局から決算見込みとしての会計報告がありました。二人の監事からはまだ済んでいない会議報告書の作成など確定した段階であらためて監査との報告も。予想される収入と支出の残額は環境教育のために小中学校に配布する資料にあてることになりました。県環境保全協会が次代を担う子どもたちに作成したCDを予定しています。

環境と経済の好循環まちづくり

新たな「e-地域協議会」に…



会議終了後に市役所の食堂で反省懇親会が開かれました(もちろん会費制)。この大きな会議が、そしてこの実行委員会が、さらに発展した新たな形として生まれることを期待します。飯田市では温室効果ガス10%削減をめざし環境省の補助を受けた「平成のまほろばまちづくり」が始まります。その推進組織が新しく作る「e-地域協議会」。この実行委員会のような強力な組織をめざします。



<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/mokuroku/book/ISBN4-7615-2344-1.htm>

環境マネジメントとまちづくり

川崎健次さんの周りに集まった仲間たち

環境省へヒアリングに出向いた帰りに半蔵門の環境自治体会議事務局に立ち寄りしました。いだ会議の報告書の相談などでした。そこで「環境マネジメントとまちづくり」の本を手に入れました。豊中市役所の職員だった川崎健次さんの死がこの本を世に出させたこととなります。

田中市長とともに参加したソウルでの「持続可能な都市のための20%クラブ」ワークショップはじめ会議で何度か一緒する機会がありました。豊中市の環境マネジメントとパートナーシップ、ローカルアジェンダ21は川崎さんを抜きにしては語れないでしょう。「制度や仕組みも市民の声を取り入れるだけでなく、一緒につくっていく、つくっていく、そういう時代だよ」「とよなか市民会議」と多くを手がけ成果も出しました。

環境自治体会議の須田春海事務局長、中口毅博さん、増原直樹さんはじめ法政大学の田中充さんなど飯田市と縁のある方々が執筆されています。飯田市役所の内部監査に参加してくれている山本芳華さんが自己適合宣言を詳しく分析・紹介しています。

植田和弘さんのはしがきにありました。「環境自治体づくりの目的は直接的には地域社会の達成すべき環境目標を住民とともに実現できる自治体づくりにあるが、その究極の目的は持続可能な地域社会をつくることにある」持続可能、環境も経済も…。

今週末は岩手県葛巻町で研究会が特別賞を受けた「元氣大賞 2004」の授賞式と事例発表があります。どんな出会いが待っているのでしょうか、楽しみです。27日には研究会の実務者全体報告会があります。南信州いむす21への支援、ISO14001規格改訂への対応、「生活と環境まつり」への出版など議題はもりだくさんです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



9月2日 今年も参加しました 長野市役所環境内部監査

長野市役所の3年目の相互内部監査としてISO14001事務局内部監査がありました。その内部監査員には長野市の2人に飯田市からの3人と東御市からの2人が加わりました。長野市の今年の試みは長野市の内部監査員が作成したチェックリストを3市がそれぞれ分担して監査するというものでした。事前に留意されたチェックリストのため緊張感が和らいでしまう点は仕方ないでしょう。監査チームとしてはまとまりやすいですね。相互内部監査も試行錯誤。

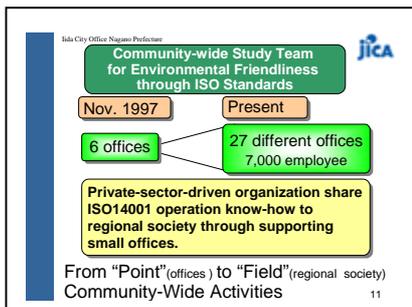


10時から16時までの実質5時間の監査。朝の渋滞も考慮して飯田を朝6時前に発ち、丸一日は疲れましたが、でも時間はいくらあっても足りないものです。このほか相互内部監査の仕組みを近隣市で構築している所沢市と飯能市もオブザーバーとして参加。

長野市のシステムは清掃センターや浄化センター、調理場など出先も多く含みしっかりしたもの。やや重い感じもありますが、とても参考にさせていただいています。

9月6日 インドネシアへ発信 JICA-Netを通じて

国際協力機構(JICA)が行う遠隔技術協力事業(JICA-Net)で「インドネシア ISO14001 セミナー」がありました。スクリーンに映し出された首都ジャカルタにいるインドネシア環境省スタッフや民間企業 50 人へほぼリアルタイムでの配信でした。



*「JICA-Net」のホームページ

<http://www.jica-net.com/ja2/about/about.html>

5つの講義のひとつとして飯田市役所のISO14001自己適合宣言を事例発表しました。理解してもらうには客観性を担保する相互内部監査は

じめ研究会の活動や地域独自のEMS「南信州いむす21」の説明がもちろん必要でした。なぜ飯田市?となると自律的な「ムトス」の精神も…。この地域での取り組みに対していくつも質問が出ましたから興味を持ってもらえたかとホッとしました。

JABの森川高志部長からは「日本におけるISO14001の取得・普及状況。松下電器産業(株)胡桃沢利光参事から、トヨタ(株)の川口隆守部長、板橋区役所の黒澤孝明係長からそれぞれの環境への取り組みを紹介。いずれも規模の大きな環境取り組みでした。

ジャカルタから「ISO14001の日本における普及の原因は何か」という質問がありました。参加者はそれぞれの立場で考えを述べました。あなたならどう答えますか。

環境首都コンテスト中部地域交流会

9月8日2003トップの多治見市で

「日本の環境首都コンテスト」は全国10の環境NPOのネットワークが主催し2001年から毎年行っているものです。2001年:93、2002年:115、2003年:83の自治体が自主的に参加しています。飯田市も当初から参加し全体で12位、4位、5位と評価されてきています。

*NPO「環境市民」のホームページ

<http://www.kankyoshimin.org/>

コンテストは情報交換や比較検討という環境施策のひとつの手段ととらえています。中部地区のコンテスト参加自治体などが2003年に総合で1位となった岐阜県多治見市に集まり交流しました。愛知・岐阜・三重・長野15自治体の担当者など44人が参加しました。



4つの自治体から事例発表がありました。桑名市は生ゴミ減量資源化と2市4町で取り組む「桑員マイバック運動」。安城市は環境アドバイザーなど市民と展開しているパートナーシップ事業。多治見市は環境部門も同席して予算化のための政策形成ヒヤリング制度。飯田市はISO14001自己適合宣言など特別表彰を受けた先進事例でした。

生徒・PTA・学校現場の夢とアイデア エコスクール 多治見中学校

多治見市の先進事例として多治見中学校を校長の説明と案内により現地視察しました。リゾートホテルかと見間違えるような学校施設らしくない学校に参加者は唖然。中庭・植栽・ウッドデッキ・トイレなどの施設。

そして体育館や特別教室などの地域開放。太陽光発電や東西二面採光、雨水循環池としてのエコスクール。校庭では運動会の騎馬戦の練習。多感な時期をこの環境で過ごすことはきっと将来大きな差になるでしょう。

*「多治見中学校」のホームページ

<http://www2.city.tajimi.gifu.jp/~tajimi/>



今年も環境首都コンテストに挑戦

皆さんの自治体は応募していますか?

第4回の今年のコンテスト募集は9月中旬からNPOの皆さんの努力で始まります。まだコンテストに参加していない自治体の皆さん、自分たちの位置、そして課題を確認してみませんか。そして自治体内部からだけでなく自治体外部からも参加を呼びかけてみませんか。皆さんが暮らす自治体に「環境首都コンテスト」ってのがあるけど参加したらと。

過去3回の参加自治体は100前後、それなりに環境を意識した自治体の応募と考えます。しかし、自治体全体の環境を通じた交流やレベルアップのためには、もう少し参加自治体を増やしていきたいものです。

出会は自分から一步を…

水谷修さんの「夜回り先生」(サンクチュアリ出版)にあった言葉です。「出会は自分から一步を踏み出すことから始まる。」
<http://www.sanctuarybooks.jp/mizutani/>
多くの出会いにより、意外な展開で不思議なネットワークが広がっています。そんな出会いをこれからも楽しむつもりです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川(株)精機) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp